

平成21年度 宇治市総合計画審議会

第2回市民環境部会

平成21年12月20日(日)

【事務局(寺島)】 ご苦労さまでございます。本日は、宇治市総合計画審議会市民環境専門部会の第2回目の会議に、委員各位におかれましては日曜日のお忙しい中、年末のせわしい中、お集まりいただきましてありがとうございます。これからご審議に入っていくことになりますので、部会長のほうにご進行方よろしくお願ひしたいと存じます。

【高原部会長】 それでは、ほんとうに日曜日のお休みの中、皆さんありがとうございます。いろいろと事務局で日程調整いただきましたけれども、なかなか皆さんたくさん参加いただける日というのがうまく調整できずに、日曜日になってしまいましたけれども、よろしくお願ひいたします。できるだけ進行をうまくまとめて、早く終わるようにしたいと思いますので、よろしくご協力お願ひいたします。

きょう、会議の進行をまた務めさせていただきます。それで、きょうお手元の次第に従って、簡単な次第でございますけれども、進めてまいりたいと思います。それで、きょう欠席のご連絡が、吉田利一委員、山本哲治委員から所用のためご欠席ということで連絡いただいております。会の成立条件としましては成り立っているということですのでよろしいですね。

【事務局(西岡)】 はい。今、半数以上です。

【高原部会長】 それでは、今回は前回いろいろと市民環境分野につきまして事務局から現況と課題についてご説明いただいた内容を、ご意見とか質問をいただきまして、まだ少し議論が足りないところがあるということで、質問シート等でまた質問をいただいております。それに関しての事務局からの回答等いただきまして、また議論を進めていただきたいと思いますので、お願ひいたします。

それで、前回と同様に会議録を作成する関係上、事務局から、発言いただく際はお名前をお願ひしたいということです。それから同様に、この会議録自体は情報公開の対象となるということですね。これも前回のとおりでですので、よろしくお願ひいたします。

それでは、会議次第の2のところの現況と課題についてというところで、まず、委員の皆さんの中から、総合計画のこの審議会の中で現在やっただいている現況と課題の審議という中で、我々はどういう位置づけでこの会議が進められているかということが十分にわかりにくい点があるので、もう少し説明をいただきたいというご意見がございましたので、まず、事務局からその辺のところの説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひいたします。

【事務局(西岡)】 事務局の西岡です。座って説明させていただきます。

それでは、お手元にお配りしました「宇治市総合計画審議会質問シートの回答について」という資料をごらんください。まず、この資料は、前回の部会以後にいろいろ質問シートでご質問いただいた内容の回答文です。その回答文に使用した内容でもって、現在の現況と課題の位置づけについて説明をさせていただきます。お手持ちの資料の4ページをごらんください。

まず、このご参加いただいています市民環境専門部会の部会の担当範囲といたしまして、前回も説明しましたが、第5次総合計画の施策体系の大分類1の中分類1の「環境保全対策の推進」と、大分類2の中分類の1から7までというふうな範囲とさせていただきます。

それと、行政側の担当課といたしましては、2ページめくっていただきました6ページに、この市民環境部会が担当します部、室を書かせていただいています。本日参加させていただいています総括企画主任と企画主任が、それぞれの課の担当者となっております。

続きまして、専門部会についてということで、今回の専門部会は、第2回総合計画審議会で配付しました「宇治市総合計画現況と課題」について各委員に意見や質問をいただくもので、また、基本構想（案）、中期計画（案）について、今後この専門部会で議論を行います。

続きまして、総合計画についてといたしまして、総合計画は地方自治法の法律により定められているもので、その中には基本構想、中期計画なるもので総合計画が成り立っています。総合計画はすべての上位計画であるため、事業細部というより、全体の大まかな方向性を示す計画となっております。

ページをめくっていただきまして、5といたしまして、現況と課題について。最も大きな計画である基本構想に入る前に、施策ごとの現状や課題を把握していただくために、中期計画の一部である「現況と課題」から議論させていただきます。その6のイメージ図をごらんいただければわかるかと思うんですが、実際、総合計画の中の「現況と課題」というのは、点線の箱の中の下の箱の中期計画の中に含まれるもので、今後、中期計画の中でもこの現況と課題について議論いたします。ただ、基本構想を策定するに当たって、先ほど申し上げましたような状況を把握する意味で、ちょっと順番を先に持ってきているような形の議論をさせていただいていますので、今どこにいるのかというふうなちょっと疑問に思われたところについては、こういうイメージで進めていますというふうなことでさせていただきます。

現況と課題の位置づけについては以上でございます。

【高原部会長】 今、5ページのフローチャートのような図で、現在のこの委員会でやっております現況と課題についての位置づけをしていただきましたけど、今後の流れとして、ご質問の中にありますように、2ページのところです、ご質問の中の「長いスパンの中での審議会の流れのオリエンテーションの開催をお願いします」という意味で、この7ページの図で少しスケジュール等をもう一度ご確認いただけませんか。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田でございます。今7ページ、では、お聞きいただきまして、まず、今12月20日でございますけれども、現況と課題、ここに今立っております。次、この現況と課題で意見いただきまして、その意見をまとめたものを次の全体会までに委員さんのほうにお示しさせていただいて、いいよと、全部の意見を反映できるわけではないので、だめなものはだめということで一たんお返しさせていただいた上で、次、今ちょっと1月のところに二重丸がついていますけれども、多分2月にずれと思います。2月の時点で次の基本構想と、その結果を含めまして、もう一度一たんご提示させていただきます。その基本構想をやった後で次、中期計画、大体22年度の4月ぐらいから入りますけれども、今いただいた現況

と課題も含めまして、もう一度議論をさせていただくと。最終的なところですがけれども、大体夏ごろまでに大体の案をすべて総合計画といたしまして、基本構想、中期計画等も固めましてパブリックコメントにかけさせていただき、その後、最終調整に入っていくというようなスケジュールでございます。

以上でございます。

【高原部会長】 ありがとうございます。現在ここで審議していただいていることを、市民環境関係のところでは皆さんのご意見いただいて、前回もいただいて、また質問シート等でもいただいて、この内容をさらにご意見を参考に、改訂版を来年の2月ぐらいまでにつくっていただくということよろしいのでしょうか。

【事務局（吉田）】 そうですね。

【高原部会長】 ただいまのようなご説明ですがけれども、委員の皆さんから何かご質問、ご意見ございますでしょうか。大体ご理解いただけましたでしょうか。よろしいですか。

それでは、大きく前回説明いただいたような市民環境部門の、4ページの上にあるような中分類のわりと広い範囲にまたがってはおりますけれども、これに関しての現在の課題、どういう問題があって、どういう対処等を市としてはしていけないといけないかというところをご提案いただいている、そのわかりにくいところ等をさらにご質問いただいていると。前回のこの審議会の中では、いただいた意見に基づいて、またまとめていただいております。議事録もできますし、要点もつくっていただいて、2月の改訂版に向けてご準備いただきたいと思いますけれども、この質問シートでいただいた質問の、ちょっと多岐にわたっておりますけれども、それぞれについて事務局のほうから回答を準備いただいております。これ、一つ一つ細かくご説明いただきますと時間が十分にございませぬので、要点だけ、重要な点につきましてまた事務局のほうから、8ページ以降ですか、ちょっと説明いただけますでしょうか。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田でございます。市民環境部会、大変広いですので、幾つかに分けて行かせてもらおうと思うんですがけれども、まず8ページでございましたら、環境保全対策の部分で質問をいただきましたので、質問の大体のポイントだけ説明させていただきますながら進めようと思います。

まずCO₂、二酸化炭素ですがけれども、排出量について特色はどうかということでもあります、このような形になっておりまして、全国平均よりも多いのかなというような形になっております。

ヒートアイランド対策と緑化も必要でないのかということに関しても、緑化の促進制度等始めておるほか、行政として今、特に緑のカーテン事業をやっているということを説明しております。

めぐりまして、9ページでございますけれども、ライフスタイルの見直し等々の、具体的にはどんなことかということですがけれども、大量消費社会のあり方を転換して、無駄を省いた省エネの取り組みを啓発していくことだと言っております。委員もそういう思いで言っていたと思うんですが、言葉にするとなかなか難しいんですがけれども、一步を始めると、そう

というようなイメージだと思います。

それから、成果と残されている課題ということで、こちらのほうに挙げている緑のカーテン事業、エコファミリーの事業、環境フェスタ、エコクッキングなどの取り組みをしております。今後につきましては、後段3行になりますけれども、民生家庭部門、民生業務部門のところでさらに追加していくという部分が残された課題と考えております。

次の質問に移りまして、内容がまざっているんじゃないかなというところがございますけれども、こちらにつきましては精査させていただきたいと思っています。

めぐりまして、10ページですけれども、中国からの黄砂にまじってというようなことがございます。実際のところ、数字、黄砂に付着して飛来する有害物質、汚染物質については、調査していないところがございます。ただし、測定結果につきましてはすべて公表していきまして、ホームページにも載せているところがございます。

次ですけれども、オートバイ、スクーターです。自動車排気ガスの中にオートバイ、スクーターも含まれていますので、引き続き、車も含めて監視体制は続けていきます。

それから、生活排水の部分ですけれども、宇治市のところで特に左岸について下水道がまだ進んでいない関係で、どうしてもこの地域は水質が悪いのかなと思います。頑張っって下水道を進めまして、普及させていこうと考えています。

それから、車と生活排水以外ということですのでけれども、現状のところでは、今ポイントになっている自動車排気ガス、それから生活污水が最も監視が必要なのかなと思っています。その他についても当然監視活動は続けていきます。

【高原部会長】 済みません、こちら辺で区切り、よろしいでしょうか。ただいま、委員の皆さんからご質問いただいた件に関して幾つか要点をご回答いただきましたけれども、この点に関してご意見等ございましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

【桑原委員】 市民公募委員の桑原です。2つ質問がありまして、1つは8ページに書いてありますほかの市との平均とかいうところで、全国平均との比較なんですけど、抽象的な平均値と比べてみてもあまり意味がないと思うんですが、宇治市を市との中のランキングで見ると、どのぐらいのところに宇治市はいるんでございましょうか。

それが1つと、それから、P9の真ん中の質問に対するご回答は、こういったことをやったというふうに書いてあるんですけど、今までなさったことはどんな成果が上がったのか。その辺、2点ご説明いただければありがたいです。

【高原部会長】 まず、今のご質問の二酸化炭素の排出量の全国レベルの市の位置づけですけれども、これは全国で何位とか、そういうのもイメージとしては重要かと思うんですけれども、例えば同じ規模の市とか人口当たりとか、それから基本的にはやはり自然環境の量と都市の規模と住民人口とか、その辺の同じような規模で比較して、どんな程度かというところがまず重要じゃないかなと思うんですね。同じ人口でも大規模に山林を周辺に含めている市と、街だけでしかないところとでは随分違ってくると思いますので、ですから、今後こういう整理をしていただく中で、そういう視点で資料を、市民の方に説明するときに、宇治市がどれぐらい

こういうことの問題点としてレベルにあるのかというところをまたご用意いただくということで、いかがでしょうか。今ちょっとこれを出していただくのは難しいと思いますので、そんなところでよろしいでしょうか。

それから、9ページのライフスタイルの問題ですけれども、これは社会経済活動や生活様式の転換ということで、現在、日本だけではなくて世界中で、20世紀が消費の世紀であって21世紀は持続可能な社会をつくるという、大きなパラダイムの変更というところがあると思いますけれども、そういったところで、これは社会も市民も行政もみんなで新たな方向を今、模索しているところではあると思うんですね。そういうところで、身近なところで市の中でこういう緑のカーテンとかこういったことをやっていたりしている中で、これが実際にどれだけ二酸化炭素の削減に結びついているかというようなことを、効果として、それから市民の意識の改善というようなところがどれだけ効果があるかということだと思えますけれども、これに関しまして、いろいろと市民のアンケート、意識調査なんかもしていただいている、報告書なんかも出されているようですので、今後重要な点としましては、こういう事業をした後にどれだけ効果があったかということが問われると思いますので、PDCAサイクルの中のこのチェックのところ、そこを踏まえた上で、今現在国でやっております事業仕分けではございませんけれども、効果があるのかなのかということを確認してほしいというご意見だと思いますので、現実には行政の中で市民の意識を高めると、そういう新しい生活スタイルを市民に考え方を普及して知っていただくという意味では、ちょっと数字がすぐにあらわれてくるのは難しいのではないかと思いますけれども、またそういう調査された統計とかそういうものがございましたら、そういう数字を出していただければと思いますし、もし今何かすぐわかるようなことがございましたら、ちょっといただければと思いますが。特にございませんか。よろしいでしょうか。

【太田環境企画課長】 環境企画課、太田と申します。今のご質問の中で、具体的な数値どうなんだということなんですけれども、正直言いますと、それぞれの事業等やっている中で、はっきりと数値として申し上げられるのは、太陽光発電システムの補助制度、これにつきましては毎月月末ですか、そういうので、申し込みの件数がどれだけあったんだとかいうようなやつは出ます。ただ、それによってCO₂の排出量がどうなったとかいうのは、これはちょっと非常に厳しいというか、今すぐに宇治市全体でどれだけの効果があったかというのは、数値としてあらわすことは非常に困難かなというふうに考えております。また、そのほか環境フェスタとかエコクッキングとか、この辺につきましては、例えばイベントですので当日の参加者は何人だったとか、そういうふうな形での数値はあらわせるんですけれども、ほかの側面からの効果、じゃ、市民の方の意識はどうなったんだとかいうようなことにつきましては、これも結果として申し上げるのは非常に困難かなというふうに考えております。

以上でございます。

【高原部会長】 例えばそういういろんなイベントをやられた後、アンケートなんかとおられますよね。そういうのはないのですか。

【太田環境企画課長】 エコクッキングのほうなんかについては、アンケートというような形じゃなくて、パートナーシップ会議のほうで主体となって開催させていただいているんですけども、その中で後のいわゆる会議、そういう中で意見としていただいたら好評やったかなとかいうような程度でございます。また、環境フェスタにつきましては、実は昨年初めて第1回目を開催させていただきまして、今年度も3月に開催する予定をしているんですけども、アンケートをとったとかいうようなことは、ちょっと第1回目のときはやっていないというふうに聞いております。

【高原部会長】 桑原さんのご意見のように、やはり何かそういうイベントをやったというだけではなくて、参加者の意識がどういふふうに変ったかというようなことがわかるような、少しアンケート等工夫いただければ、それだけでも、それを宇治市が事業としてやって、市民に対するライフスタイルの見直しに効果があったというようなことが少しでも改善していくという意味では、そういうものがあつたほうがいいのじゃないかなと思います。今後この施策の計画の中で、そういうところも含めてお願いできたらと思います。

ほかにございませんでしょうか。

そうしましたら、次のところへ参りたいと思いますが、先ほどの続き、11ページですね、お願いいたします。

【事務局（吉田）】 11ページでございます。こちらは「環境美化及び住宅周辺の環境整備の推進」ということで、ごみ関係、どっちかというところと散乱ごみと思うんですけども、十分かということでございます。37名のボランティアの方にやっていただきまして、10年ほどやっているんですけども、大分ポイ捨てのごみが減ったんじゃないかなとは認識しております。今後は、もう1つはほかの方にも活動を広げていって、各地域でやっていけるようにしたいのかなというようなことを考えております。

めくっていただきまして、12ページでございますけれども、下水道の普及率でございます。本市の下水道普及率ですけども、20年度で73%、全国平均で72.7%でございます。下水道普及率でございますので、地方、町が点々としているところではなかなか厳しいこともございまして、平均では同じぐらいになってはいますけれども、うちらが都市部でどうかというようなことは把握しておりません。

めくっていただきまして、13ページが全国の市でのごみ排出量のランクでございますけれども、19年度の処理実態調査結果が14ページ、一般廃棄物というものが市の処理するべきごみなんですけれども、1人1日当たりのごみ排出量であれば42位、全国平均よりもかなり少ない数字だと思います。リサイクル率、下の表でございますけれども、高いところもございまして、うちが25.4%で70位でございまして、全国平均よりも2割ほど上回っているという形でございます。

めくっていただきまして、15ページ、第2次ごみ処理基本計画でございますけれども、こちらのほうに、「基本方針に基づいて、市民、事業者、市がそれぞれの立場で実施すべき行動指針を以下に示します」ということで、ずっと示しております。こちらのほう、具体的に市民

はこういうことを、事業者はこういうことを、めくっていただきまして、16ページはこういうことをという形で説明しておりますので、こちらの中は読まずに割愛させていただきます。ここまでが大体環境、ごみのところでございます。

【高原部会長】 ありがとうございます。ただいまの点、何かございますでしょうか。

高原ですが、ちょっとこの現状と課題の中の文章で、これは大分類の1の中分類1、小分類3のところだと思いますが、この現状と課題の4ページですけれども、今のご説明の中にありましたボランティアによる環境美化推進という中で、4ページの、わかりますでしょうか、上から6行目ですかね。こういうボランティアの活動により、「ごみの回収量は減少傾向にあります」と書いてありますね。これは詳しく読めばわかるんですけれども、ごみの回収量が減少傾向にあるというよりも、ごみのポイ捨てが減少しているという意味でいいんでしょうかね。そういう内容ですか。じゃ、もうダイレクトにそう書いていただいたほうが、ごみの回収量が減るとするのは、そのボランティア活動が縮小しているというふうにもとれますので、ごみのポイ捨てが減少していると。そういう普及、市民の意識とかですね、こういう活動によって市民が道でゴミを捨てない、市民だけじゃないですけれども、傾向になっているということでもよろしいですね。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田でございます。たしかそういった散乱ごみの回収のときのごみの減少だというふうに認識しておりますので、ちょっと今意見いただきましたので、わかりやすいように変えさせていただきます。

【高原部会長】 また改訂のときをお願いいたします。

ほかにございますでしょうか。

【佐原委員】 佐原です。私は今、宇治文化少年団という、子供たちに宇治の文化と歴史を学ばせるといいたいでしょうか、そういう組織の団長をしておるんですが、青少年によるクリーン宇治運動ということで、年間2回、たしか11月と3月に塔の島を拠点にして実施されておるんですけれども、10年近く私もその活動といいたいでしょうか、参加させていただいているんですが、年に2回子供たちを集めてごみ拾いをするという部分、確かに素晴らしい活動だというふうに思うんですが、何かそれから一つ、もう一步、例えば子供たちの精神教育、表現がちょっとうまく言えないんですが、教育といいたいでしょうか、その辺の何かこう非常にマンネリ化というか、これ以上の策はないのですかというような投げかけをしたいなというふうにいつも思うんです。時間が来たら集合して、開会式をやって、そしてそれぞれにいろんな子供たちの組織に分担させてごみを拾うんですけれども、その協議会自体が考えればいいことなんですけれども、当然行政さんのほうもかかわっておられますので、何か実働部隊じゃなくて、というのは実際にごみを拾う活動だけじゃなくて、何かこう教育という部分で考えておられるようなことがないんでしょうかというのが私の質問なんです。

【高原部会長】 何かそういう取り組み等ございましたら。

【太田環境企画課長】 環境企画、太田です。今のご意見なんですけれども、確かに教育とかいう、子供たちに対してですね、啓発とかそういうふうなものを進めていくという中では、

私どもの課だけじゃなくて環境政策室、ほかの課もあるんですけども、そういうところなんかがふだん学校へ行って、いわゆるごみ、「こういうごみが出ていますよ」、「こういうごみはこういう形で収集しますよ」とかというような、そういう教育の時間をとっていただいていますし、私ども環境企画課サイドでは自然、「宇治の自然はこんなですよ」ということで山間地の河川なんかに行って、「いろんなこういう水生生物がいますよ」というようなことで、自然に対する子供たちの受けとめ方というか、情操の部分でそういう場を提供させていただいております。また、それ以外にというようなことでしたら、今の段階では私ども環境企画課サイドでは、なかなかいい案というのを持ち合わせていないというような状況でございます。

【栢木環境政策室参事】 ごみの収集のほうを担当しています栢木と申します。ごみの収集のほうの面から、やっぱり子供たちにも分別、リサイクル、それからごみの減量についていろいろ勉強してもらう必要があるということで、我々は環境教育というような言い方をしているんですけども、小学校22校今現在ある中で、今年も半分以上の学校に寄せていただいて、小学校4年生を対象に、ごみの分別それから減量に向けた家庭での取り組みの重要性等お話をしたり、現実にごみの収集車等も持って行って、目で見て、それから体験をしながらごみの減量に向けて知ってもらうというような取り組みも、まだ始めてきたばかりですので、これからもっともっと充実させていかないかなというふうに思っているんですけども、小さい保育所の子供たちまでもあわせてやっています。それ以外に、青少年だけではなく、やはり一般の方々の皆さんの分別意識がまだまだ低いので、各種団体にも呼びかけまして、分別とかごみの減量の啓発をこれからも拡大していきたいというふうに考えているところです。

【高原部会長】 ありがとうございます。佐原さんのされている活動、ごみのポイ捨てとかそういうものだけではなくて、教育面からも、ごみを減らす方向へのところも含めて、市としてやっておられる教育活動を今ご紹介いただきましたけれども、そういうものがうまく連携するところが今後あればいいと思いますので、佐原さんとそんなところでまたいろいろとアイデアも出していただければと思います。

それから、この現況と課題の中で、今のお話の中でちょっとわかりにくい部分があるなと思っていますのは、4ページの、先ほどのごみのポイ捨てのところですけども最後の4行、害虫の発生と水質汚濁とか家庭排水とか、この辺がどういう因果関係、もしくはその害虫というのは何の害虫なのか。農作物への害虫なのか、例えば人への蚊とかハエとかゴキブリとかそういうもの、衛生的な害虫なのか。その辺、因果関係をもう少しわかりやすく書いたほうがいいのではないかなと。例えば最後の2行も、「家庭排水による水質汚濁の防止が害虫発生を抑制する」というようなところも、もう少し水質の汚濁によってどういう害虫が発生していて、それが主に家庭排水に負っているのだというようなことが明確であるならば、その辺のところをもう少しわかりやすく書いていただいたほうがいいのかなと思いました。その点また少し検討いただいて、改訂版のところに反映していただければと思います。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田でございます。今いただきました意見を踏まえまして、改訂させていただくように考えさせていただきます。

【高原部会長】 それから、ついでですので5ページのごみのし尿関係のところ、上から5行目、「ごみが適切に処理されるために最も大切なことは、排出ルールの徹底」というのは、これがちょっとわかりにくいと思いますので、「分別などの廃棄ルール」とか何か、ごみを出すルールのことですよね、言っておられるのは。それを排出ルールというなら、そういう定義があるならいいんですけれども、ちょっと一般の人は、排出ルールというのは二酸化炭素の排出みたいなイメージで、排出というのは物から出てくることで、家庭から排出されるという意味かもしれないんですけれども、ちょっとわかりやすい言葉にさせていただいたほうが。単純に言えば「分別などの廃棄のルール」というようなことかなと思います。

【高橋委員】 議員の高橋です。実は今、排出の話が出ていますけど、この意味をどう解釈するのかなと思うのも1つですが、近々の話で、私も議会で取り上げておる指定ごみ袋というのがありますよね。ああいうもののアプローチがどこかに書いてあるのかと今探したんですけど、それと、私が前のときにしゃべっているのかなと思っていろいろ前のときの発言を見てもそれがありませんけれども、どこかそういうようなものも網羅していく必要があるんじゃないかなということもちょっと思うんですけど、どうでしょうか。

【高原部会長】 あれでしょうかね、京都市がやっているような袋を……。

【高橋委員】 今現に、近々で宇治市も取り組もうとしているんです。ちょっとそういうところも。

【高原部会長】 なるほど。こういう中でそういう対策としてのお話ですので、ちょっとご紹介いただけたらと思いますが。よろしいですか。

【澤田ごみ減量推進課長】 ごみ減量推進課の澤田と申します。先ほどご指摘の件でございますが、今回は現況と課題ということで、これまでやってきた取り組みについて一たん総括させていただいたというようなことですので、今おっしゃっていただきました指定ごみ袋、確かに現在、廃棄物減量等推進審議会という審議会がございまして、そちらのほうで指定袋の導入に向けまして今現在審議をさせていただいているところでございますので、現況と課題という課題の部分で取り上げていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【高原部会長】 ありがとうございます。

【桑原委員】 桑原でございます。ちょっと素朴な質問なんですけど、私、マンションができたときに、あのごみの細分化の分類をもっとすべきだという意見があって、ちょっとかなりうちは燃えるごみ、燃えないごみって粗っぽくなっているものですから。そうしましたら、いろいろ何か当時のマンションの人が調べてくれたら、ごみ処理施設のほうにそんなに細かく分類したって対応できないと。特に私のマンションは民間の業者さんに出しているものですから、ある大きくて十把一絡げで出しても、処理施設のほうは同じなんだというような話を受けて、市のほうの細分化されたあれほどやっていないんですけれども、何か廃棄物の処理の設備とのミスマッチみたいなものがあるんじゃないですか。

【高原部会長】 どうぞ。

【澤田ごみ減量推進課長】 ごみ減量推進課の澤田です。今おっしゃってもらっています民

間での処分につきましては、基本的には産業廃棄物ということで処理をされているのではないかとこのように思います。通常我々が集めさせていただいています家庭系のごみの分につきましては、城南衛生管理組合の施設で今、市のほうでお願いしています分別区分に基づいて処理のほうをさせていただいているのですが、今おっしゃっているマンションのごみがどこに行っているのかということにつきましては、産業廃棄物ということになりますと我々市町村の管轄外になりますので、把握をさせていただいていないというような形になってまいります。

【高原部会長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

あと、ちょっとついでというので申しわけないんですけど、6ページのところで下から7行目ですけれども、「3Rの推進等に取り組むこととしました」というところですね。これ、リユース、リデュース、リサイクルのRをとられて3Rというのはわかるんですけども、これもやはり先ほどの子供の教育からも含めて、もう少しわかりやすくどういうことかというのを書いていただいたほうが、やっぱり市民皆さんに理解していただくという意味では、あまり片仮名とか英語とか使わないほうが、格好いいのは格好いいんですけども、意味が全然わからんというのがこのごろ多いですので、どんどんどんどん新しい言葉が出てきて、初めて聞く言葉を行政の方が普通のようにしゃべっておられるというのが結構多いんですよ。ですので、できるだけ英語は使わず、片仮名もやめて、日本語があるものは日本語でやっていただきたい。これは私個人的な意見ですけれども、お願いしたいと思います。

ほかに何かございますでしょうか。よろしいですか。

そうしたら、ちょっと時間もございませんので、次のところをご説明いただけますでしょうか。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田でございます。次は、大分類でいきましたら「ゆたかな市民生活ができるまち」ということで、2つぐらい説明させていただこうと思いますけれども、「地域コミュニティの育成」ということで、現状で十分なのかということでございます。これは難しい概念なんですけれども、こちらで把握しているものといたしましたら、町内会、自治会の加入率が減少傾向にあるのかなというところでございます。いろいろ現在の核家族化等々問題がございますので、広い範囲で支援していく必要があるのかなといったところです。

次ですけれども、コミュニティセンター、ふれあいセンター、集会所ですけど、稼働率でございます。稼働率についてはおおむね8割ぐらい、集会所につきましてはそのところの地域、どこか例えば木幡の集会所を大久保の方が使うということにはならないので、その地域の取り組みによって違いますけれども、おおむね増えている傾向にありまして、コミュニティ施設につきましてはそこに書いてある箇所数になっております。

めぐりまして、18ページ、こちらのほうは市民文化についてでございますけれども、取り組みですけれども、特にこの間、去年は源氏物語千年紀がありまして、次は古典の日に行っておりまして、それなりの結果は得たのかなと思っております。いろいろ文化事業をやっておりまして、一定市民生活に例えば宇治田楽とかも定着してきておりますので、今後とも発展していくようにやっていこうということを考えております。

次ですけれども、源氏ミュージアムと興聖寺ですか、仏閣とかは無駄かというようなことですけれども、それぞれ特色あるものでございますので、それぞれが情報発信しているのかなと思っています。文化保護とか文化振興については、市でできる範囲で積極的に支援しているというふうに思っております。

以上です。

【高原部会長】 ありがとうございます。何か、ただいまのご説明にご質問ございますでしょうか。

【佐原委員】 佐原です。自分自身の反省でもあるんですが、昨年、源氏物語千年紀という大きな節目で、我が田んぼで田んぼアートという事業を行ったんですけれども、結局単発で終わってしまったと。その後何か、継続事業じゃないんですが、何か続けて事業ができなかったかなというのが私自身の反省点なんですけれども、宇治市ももう1つ、千年紀という大きな節目で、源氏ミュージアムの入館者数というのかなり数字的に把握というか、かなりの動員をされたという報告も受けておるんですけれども、何か節目を迎えてやってしまって、それで終わってしまっているというような、その続きといたしましうか、その辺が非常にこう欠落しているんじゃないかなというふうな印象を持っておるんですが、そのあたりどうでしょうか。私自身が田んぼアートを一発で終わってしまったという部分で非常に反省を思っているの、何かそういう部分で続けてというか、その辺のところはどうだったんでしょうか。どうだったんでしょうかというか、どうなんでしょうか。

【高原部会長】 いかがでしょうか。今のお話のように、源氏物語の千年紀の後、そこで終わらずに、それをうまく次へつなげていくということはどうな状況でしょうかということなんです。1つは、宇治川の景観が国のほうから指定されたというようなこともあって、その辺のところ、宇治川を中心として観光等に力を入れていただいているということもあるんですけど、その辺も源氏物語の千年紀から引き続き、平等院はじめ重要な景観としての位置づけがあると思うんですけど、その辺いかがでしょうか。

【五艘市民環境部長】 私どもの源氏の取り組みといいますと、10月から11月を中心として、基本的には大きな部分として4つの事業があるんですね。まず1つは、市民の田楽まつりというのが11月の中旬にありまして、それから、その中旬からスタンプラリーというのを約、1カ月は行きませんが20日間で都合土・日で5回、千年紀の場合は7回というような形で、土・日に市内の源氏関係の遺跡をスタンプラリーで回っていただくということで、その事業。それから源氏物語ミュージアムの源氏物語セミナー、そして一番頂点に、紫式部文学賞と同市民文化賞というその授賞式を最終持ってきまして、その4事業で源氏ろまんというのをやっているわけですね。これを20年間ぐらい、19回ですから来年で20回になるんですけど、そういうものを行っています。それを中心に置きまして、あと例えば千年紀事業ですと佐原さんのような源氏の田んぼアートとかいう形で、いろんな単発事業とかそういうもの。それから、11月には市民文化祭というような形で、文化センターで絵画、芸術、音楽あるいは舞踏などの団体の発表会がございますので、全部それを横軸にくっつけていくというような

事業をしております、その意味では長らく続けてきたんじゃないかなというふうに思っているんです。それからハード面としては、源氏物語ミュージアムはいわゆる目で見える源氏物語というような形で、それをハードでサポート。それから周辺の道路整備は、源氏物語にちなんだ整備、例えば宇治川兩岸については「さわらび」、「あじろぎ」とか、そういう道の名前をつけて、さらに黄檗山まで結びつける「こまかげの道」というような形で整備をしていく。その整備途中には、ツバキの「光源氏」という、ツバキって種類がたくさんあるそうですが、そういうツバキを植えて、最終的には春先じゃなくて冬の枯れの時期にお花が咲くように、そういうルートという形でいろいろ取り組んでおります、その意味では、昔々は「茶と観光の宇治」といったんですけれども、今ですと「源氏物語のまち宇治」というような形で、来られる方はちょっとイメージを変えていただいているんじゃないかなと思うので、そういう基本的なことをやっておりますので、それにいろいろつなげていただくというのは、ある意味では単発でもありましようし、また、それなりに関連性ということであれば、むしろそういう行事を次々いろいろ続けていただくほうが、我々としては非常にありがたいことかなとも思っております。

【高原部会長】 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、次のところをお願いいたします。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田でございます。続きまして、19ページですけれども、小分類で言えば「農業の振興」ということになります。農業政策の基本方針とは何かということで5点ほど挙げていただきまして、農地の確保、それから低農薬有機栽培、それから生産者組織の体制強化、それから市民農園の促進、観光農業の振興となっております。

続きまして、達成度の指標、これはまた難しいところなんですけれども、取り組み状況及び成果とか事例ということになるかと思えます。

それから、農業関係の助成金ですけれども、どんなものかということでございまして、茶業振興費としておおむね2,000万円、内容につきましては、そこに書いてございますように手摘み茶とか品評会の出品とか改植事業等でございます。それから、農業振興費としては1,000万円ほどでございまして、学校、地元産米の使用の推進でございますとか、資材の高騰とかの緊急の支援事業でございます。

それから、市民農園の拡大につきましては、そちらに書いております。この市民農園は、いわゆる老人園芸広場ではないものでございまして、一般的には近隣農地のトラブルとかその他の問題がございまして、拡大というのはなかなか広がっていないのが現状でございます。

めくっていただきまして、20ページのほうが「茶業の振興」でございます。弱みと強みですけれども、宇治茶という絶対的なブランドが強みですけれども、茶園面積がやはり開発等で減ってきていること、それから後継者が減っているということが弱みと認識しております。

それから、茶業への助成金の細かい内容は、そこから5点ほど書いております。高品質茶の推進事業でございますとか出品奨励、それから優良茶園振興事業、それから製茶機械貸与事業等々でございます。

それから、宇治の茶の生産量の宇治茶に占める比率でございますけれども、60トン程度と
いった形でございます。

続きまして、めくっていただきまして21ページですけれども、用途開発の実績ございま
す。抹茶クッキーとか等々多数あります。商品を開発していけば、どんどん広がっていくのか
なと思っております。ちょっと読み方あれですけど、茶道中再現の計画は、茶の関係機関等と
協議が必要かなと考えております。

続きまして、そしたら林業、漁業の22ページですけれども、林業従事者ですけれども、人
口の何割かといいますと、45人で19万3,000人ほどいますので、0.02%という形に
なります。GDPに占める比率というのはちょっと把握しておりません。

それから、林業従事者の生計でございますけれども、専業従事者がいない形ですので兼業者
となります。ほとんどは年金所得者でないのかなというのが、年齢構成からいったところ推測
されるところでございます。

次、林業の位置づけでございますけれども、過去は生産とか涵養とか景観保全だったんです
けれども、休養とか体験学習のフィールドの役割というようなことを書いています。地球温暖
化で、細かいところであればあれですけど、大きな意味では温室効果ガスの吸収源というふう
に一般的には言われています。

次、助成金ですけれども、間伐、枝打ちで120万程度の助成となっております。

めくっていただきまして、23ページです。多目的利用ですけれども、活用につきまして4
点ほど挙げております。水源を守る、それから文化の森、それから恵みの森、学びの森、それ
から地球温暖化対策等々と考えています。

最後、漁業でございますけれども、宇治川漁協組合が、宇治川の水産資源の増殖を図る目的
で種苗放流事業をやっております。

以上です。

【高原部会長】 ありがとうございます。何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

【桑原委員】 桑原です。農業のことなんですけれども、何か地方自治体によっては、地産
地消のために、産地と消費者を直結させるためにいろんなことをなさっているみたいですが
ども、宇治市はどんなことをなさっているんでございましょうか。

【高原部会長】 何かございますか。

【五艘市民環境部長】 市民環境部長の五艘です。地産地消というのは非常に今、キャッチ
フレーズみたいになっていますが、実は生産量から言いますと、宇治市内で賄えますのはお米
とネギだけなんです。佐原委員も生産に関わりなんですけれども、特定の物産で、例えばブ
ロッコリーとか伏見とうがらしという1つのブランドはあるんですけれども、そのほかの野菜
といいますと、生産量それから出荷の状況、季節的なものというのは、地産地消の場合はある
程度の量を恒常的にずっと1年続いて出していけて、消費者とのコンタクトがとれるとい
うことになっているんですけれども、品目的には非常にとれない部分というか、生産量がそれだけ
ないというのが基本的には大きな理由だと思います。ですから、よくそういうのがあるんです

けれども、特定の品目以外はなかなか宇治では成立しないんじゃないかなと思います。隣の久御山町とか城陽市とかになりますと、これはある程度農業生産、野菜生産というのが非常に盛んなんですけども、実はそういうような状況で、書くほどはなかなかうまくいかないのが現状です。

【高原部会長】 ありがとうございます。桑原さん、よろしいでしょうか。

【桑原委員】 わかりました。ちょっと勘が狂ったんですけど、ここに書いてありますように、都市近郊農家の特色を生かした云々とかって書いてありますね。これは結局書いてあるけれども、今のお話ですと実態は全く違いますよと、こういう話ですか。あまりこんなのは使い物にならない農業だと。

【高原部会長】 ちょっとよろしいでしょうか。地産地消というのは、基本的にはある行政、地方公共団体の中で完結しようというのではないと思うんですよね。地元の近くの、極端な話、北海道のものを宇治へ持ってきて、宇治でもとれるにもかかわらず、宇治とは言わずにこの京都周辺でもとれるにもかかわらず、わざわざ九州から持ってくるとか。これは輸送費、二酸化炭素を消費すると、排出するということで、できるだけ輸送を使わないでそういうコストを減らそうというところに地産地消の目的の1つがあると思うんですね。そういう意味では、宇治市で完結している必要はないと思いますので、ある程度、この山城地域とか伏見も含めた京都の南部でそういうものがとれるところで、この中でうまく回るということがあるんじゃないかなと。そういう意味で、この都市近郊農業という意味はその辺にあるんじゃないかなと僕は思うんですけども。私の個人的な認識の問題なんですけど、何か事務局のほうでございませうでしょうか。

【五艘市民環境部長】 五艘ですが、都市近郊農業といいますと、住宅というか宅地化の中で、農業生産をいかに市民生活とマッチングをとるか調和をしていくかというのが、1つ非常に重要なことだと思うんですね。例えば宇治ですとお茶ですが、住宅の真ん中に茶園があって、覆いした茶園というか、茶園なんだけれども何か工場みたいな感じで、上にアングルが組んであって、そのシーズンだけよしずがかかったりするというのが宇治茶の特色なんですけれども、そういうような形で、どうやって調和をとっていくのかなというのが1つ非常に大きな課題。それから、ある程度私も、大規模な農地集積というのが農水省の基本なんですけど、できる部分とできない部分というのが近郊にもあるなど。そうすると、ある程度専業農家さんでやっていく分もあるけれども、兼業農家さんも含めた形で何かそういうような、まとめていけるというか、ほかのことも含めて農業を何とか守っていくというか、そういうこともちょっと必要んじゃないかなと思っているんですが、ちょっと桑原委員のおっしゃるような、ダイレクトにこれがこういうあり方なんですよというのはなかなか難しいんですね。特に今ですと近郊緑地法という形で、都市近郊の中の農地は法律上で相続とか税金とかそういうことが守られていますけど、どうしてもその方は永年せざるを得ないんですね。ところが、後継者の方が一方がないと。そうすると、その農地をどうしていくのか。大都市近郊、東京圏それから大阪圏、近畿圏、名古屋圏含めて、今、全国的に課題になっています。一応は土地は守られるんですけれ

ども、ずっとやっていかなきゃならない。だけでも後継者がいない。そうすると、その農地はどうなってしまうんだろう。かわりの方に引き受けていただくというのが1つのアイデアなんですけれども、田んぼとか畑というのは、先般吉田委員もおっしゃっていたと思うんですが、そういうものは引き受ける、だけど茶園なんかの場合は、自分のお茶、自分の例えば五艘でしたら五艘ブランドの茶園をつくっているというイメージがあるので、なかなかそれを次の方にお願いしますというのにはならない。一から育てる。そういう部分もあって、ちょっと農地の集積も若干難しいかなということで、非常に都市近郊農業というのは隘路に入っているかと思っています。今、全国で30ほどの自治体がありまして、そういうことでちょっと研究しようかという動きが出ています。

【高原部会長】 林業も同じような問題を抱えていると思いますけれども。よろしいですか。

【西江委員】 西江です。佐原さんの関係の農業と、それから商工の関係の接点なんですけど、今の五艘さんのお話にもありましたように、1つは法人の農業経営、これが緩和されたようですが、それに対して、むしろ役所の方よりも佐原さんに聞きたいんですけども、農協の立場としてそれが歓迎なのかどうなのか。そういう規制緩和に、どうなって、どうしていこうとされているのか、そのあたりをお聞きしたいなど。

もう1点は、これも農業とそれから産業の、農商工連携とかよく言いますけれども、具体的に言うと直売所ですね。農協を通さずに直売というのが今、4割とか5割とか増えてきているようですが、特に野菜関係でね。そういった中でニーズも、今の通常のルートで入ってくる野菜関係、生鮮関係にはちょっと消費者も飽き足らずで、むしろ生産者の顔が見える農産物を求めているとかいろいろ、それが全体に対する量かも疑問ですが、以前よりはそういったニーズが増えていることは確かなので、そういったことは農業関係者としては歓迎なのかどうなのか。それに対して、そういう潮流に対してどういうふうに対応していくか、こたえていくかということ佐原さん中心にお聞きしたいなど前から思っていたので、今の機会にお聞きしたいと思います。

【高原部会長】 いかがでしょうか、佐原さん。

【佐原委員】 佐原です。まず、今、西江さんおっしゃった後半の部分なんですけど、五艘さんが地産地消という言葉の定義づけみたいなことをおっしゃったんですけど、私の考えている地産地消というのは、例えば宇治で宇治の土、空気、水というのものもとでつくられた農作物、それがその同じ水、空気、土に触れている人たちが消費すると。これはまさしくそれが地産地消なんだろうなというふうに思うんです。現状としては、そういう農家がつくった農作物を提供するといいましょうか、販売する場所というか、そういうものが非常に乏しいのではないかなというふうに、私自身はそういうふうに考えています。例えば道の駅とか、久御山なんかは「まちの駅」なんていうような呼び方で建設されているような、そんな話も聞くんですけども、私もいろんなところに出向いて行って、いろんなところを視察じゃないんですが個人的に見て回ることが好きなんですけど、道の駅ということで非常に充実させている都市といいましょうか、ありますね。宇治市はできないのかどうかわかりませんが、そういう道の駅なるものは

ないですね、現状としては。城陽さんは道の駅をつくるんやとかというようなことも聞きますし、久御山さんは「まちの駅」というのができるんだというようなことで、そういう販売の受け皿といいましょうか、そういうものが確立されれば、農家にとってもありがたい話ですし、それからまた消費者にとっても、前回でも私申し上げましたが、やはり食の安心・安全というような部分を考えると、やはり生産者から直接消費者が手にするというか、それが一番ポイントになる。もっと言えば、みずからつくれと、自らの手で自分の口にするものはつくりなさいというのが私の持論なんですけれども、そういう販売ルートといいましょうか、そういうものはつくっていかんとあかんというふうには強く以前から思っております。

済みません、最初におっしゃった質問、ちょっと私聞き取れなくて……。

【西江委員】 最初は法人の農業経営。昔やったら農家しかだめやった。法人なんかしたらだめやった。法人が農産物をつくれるようになってきましたね。

【佐原委員】 企業がということですか。

【西江委員】 企業がね。それに対して歓迎なのかどうなのか。今先ほどのなかなか後継者がいないという問題と、農業振興といろいろ絡めまして、例えば建設業が供給過剰で公的な需要が少なくなったし、人数も少なくなったし、産業の転換というか、それがスムーズに行く意味でも、そういった農業の受け皿というのは全国的に関心があるので、宇治の農協さんなんかはそれに対してどういう見解を持っておられるのか。というのは、会議所と農協さんとの連携の要素が何か出てきそうな感じがするので、ちょっとさわりだけお聞きしたい。

【佐原委員】 JAの考え方というのは私も全然わかりません。個人的には、たしか大分は企業誘致をして、とにかく大分の産地化というか、大きな産地をつくるためにはやはり企業が農業をせんとあかんというようなことで、そういう推進事業をされているというような話を聞きました。ただ、残念ながら、幾つか企業が手を挙げて参入されたんですけれども、まだ黒字を出している企業は1つもないというような、そんなこともおっしゃっていましたので、非常に私としては難しい問題だというふうに思います。もっともっと専門的な、例えばプロジェクトチームといいましょうか、そういった部分での審議をされんとあかんのじゃないかなというふうに個人的には思っています。後継者問題という部分で、農業をする人がだんだんだんだん減っていくと。高齢化になっていくと。これははっきり言って私個人的には、大きなビジネスチャンスなんだろうなというふうに私自身は思っています。これはもう私個人の分ですけれども。

【西江委員】 よくわかりました。個人的な感想のほうが枠にとらわれずに聞きたかったんですけれども、そういう意味で、京大さんも産・学・官の連携というのがあるので、農学部強いわけで、今、法人がなかなかやったって短期に黒字出せることはなさそうですし、それと亀岡の野菜工場、あそこもまだ蛍光灯でやっているようですけれども、野菜工場もなかなか採算が合わないというようなことですが、しかしながら、これは限られた面積、イギリスと日本と同じぐらいの面積かなと、感覚だけですけれども、地図上ではそうですけれども、高さの要素を加えたらほとんど山岳で、向こうは丘が中心やということなので、絶対的にもう面積が足り

ないということがあるし、大規模化も難しいしという中で、やっぱりキーワードは地産地消とか愛着とか、そういった要素が絡んでこないといけないし、米とネギからさらにもっと、小さな畑やから小さなもの、多彩なものを植えて、そして地域で愛されるという方向性しか、これは制約条件から見たらそういう方向しかないのです、したがって、会議所だけで、農協さんだけで踏ん張ってたってなかなかいかんから、そこらの連携がこれからの1つの大きなキーワードかなと。というのは、わしらばかり質問して役所はどうしはるんやって言っても、何もしていない。市民の団体同士の連携というのもの、これから大きな要素かなと思いますので。

それと、学校の要素というのをやっぱり入れてもらって、LEDの時代ですから、相当8,000円ぐらいの、あるレートが8,000円から3,000円、4,000円ぐらいに下がってきていますし、このLEDは家庭用で2年ほど前から見たら50倍ほどに増えているみたいですね、普及が。それがいつまで待ったら農業の工場化というのが進むのか、そのあたりも我々素人よりも研究されていると思うので、その辺も。狭い中で効率よく、光だったら何ぼでも射光できるらしいし、10倍ぐらいの、10倍か20倍か知りませんが、何せ一けた違うだけの生産量が上がるらしい。ただし、コストが高いんです。そこらの視野も、できたら商工会議所と農協さんでもっと情報交換して、役所とはお互いやっているんですが、こちらの関係がちょっと薄いので、これを機会に何か提案できるようなことがないかなと思いました。

【佐原委員】 佐原です。生産現場での提携という部分と、それから販売というか、そういった部分での提携という、ほかにも提携という部分ではあるのかもしれませんが、私が気がつく部分でその2つがあると思うんですね。販売という部分では、例えば宇治橋商店街でお祭り、わいわいフェスタでしたっけ、何かされていますね。そういう部分の中で、商業部門とそれから農産物の部門というのが合体して、大きな、それこそ青空市じゃないですけども、そういうものをつくっていくのも、充実させるのも1つの方法かなというふうにも思いますし、私なんかははっきり言って、道の駅をつくってほしいななんていうのが非常に強い要望なんですよね。その辺のところは、土地の買収とかいろんなハードルがあってなかなかという部分もあるかもしれませんが、そんな例えば行政側からどういうふうに考えておられるのかというようなこともお聞きしたいななんていうふうにも思っていますし、それから今、西江さんがおっしゃった提携という部分では、やはり同じ土俵に上がらせていただかないと、これは話にならないというふうに思いますので、こういう場というものを1つのきっかけに、同じ土俵でお話しできれば、こちらは大変ありがたいかなというふうに感じております。

【西江委員】 生産するほうはそうなんですが、売るほうですけども、道の駅も我々要望をしたこともあります、やっぱり土産物を個々に売っておられる場所への影響というのがあって、相当反響があると思います。いい面もあるけれども悪い面もあるし。パーク・アンド・ライドで、取り組んだところで、土・日になったらもういっぱいですからね、渋滞。それを解消するのに、どこかちょっと離れたところで、ゆとりのあるところでとめて、こちらを見てもらう。シミュレーションができれば特にそういったことを考えないかんのですけれども、ただ、商店街の方にいいことか悪いことか。昔は駐車場が足らんから商売があかんかったというのが、

もう今は駐車場が供給過剰になって、駐車場の価格の競争に入っていますんでね。したがって、全体会議だったかどこかの会議でも、それをネットワークで、今ここの駅の近くにこれが空いているよということになれば、きめ細かく情報で提供すれば、過密な駐車場と過疎な駐車場、うまく連動もできるやろうし、したがって、そういう意味で、あまり希望を追っかけたものばかりではなしに、道の駅に対しても、反響もお互い、ほかの土産屋とか観光関係の業界がどう言うかどうかもあります。しかし、ちょっと意見をいろいろ聞きますと、例えば駅の近くで、例えば地元のスーパーさんがこの日は地元特産品の市なんだとか、そういった話の持ちかけ方も我々一遍してみたらいいなど。それから、今、宿泊客が少ないからよそのような朝市のようなものはいかんけれども、今おっしゃったような宇治橋通りの商店街のイベントのときに農家からの直売といったら、相当集客力があると思います。通常加工品でやるよりか。やっぱり直売のやつは絶対にあるし、宇治橋通り商店街の振興にもなると思います。それができたら定例化したらもっといいかなと。それはもう行事としてやる、月何回とか。だけど、スーパーさんでも行事的にやるとか、それから駅のどこかで直売で、小さな規模でもいいからみんなが寄ってくれる場所で。そういった構想も一遍、役所の方はシステムとか制度とかそういった面でいろいろ相談するにしたって、ニーズとしてあるのかどうなのか、そういったあたりはこちらを通さなくてもこうして話したほうがうんといいいように思うんですね。限られた制約の中で、ダムや産業が振興せえへん、沈滞した話ばかり言うて手をこまねいていてもいかなので、一遍限られた要件の中で活路を、農協さんと会議所というのが1つの大きなファクターかなと思いますけれどもね。

以上、何かあれば。

【高原部会長】 ありがとうございます。

【高橋委員】 今の話なんですけれども、実は議会でもそういう話に取り上げられていて、先般もあったんですけど、朝市に似たのが植物園でたまにやっておりますよね。あれもものすごく非常に好評らしいんですよ。生産者の方が持ち寄ってやっていただいておりますということがあるんです、その植物園で。そういうようなものを各拠点でやったらどうやという話も出ているんですけども、今お話がありますように、逆にそういう商業者を圧迫するような、八百屋さんですよね、具体的に。そういったことが圧迫するんじゃないかというところから、またちょっと二の足を踏んでいるようなところもあるんです。ちょっと一回市にも聞いていただきたいんですけど、そういう定期的な市を設けていくということは非常にいいことだなとは、消費者側からするとそういうようなものがあつたほうが、大きい意味で、今言っては道の駅ですか、そういったものの前提、もう少し手前の話になっているんだと思いますけれども、その辺のこと、市当局はどんな考えてはるか、ちょっと聞いておいていただけませんかでしょうか。

【桑原委員】 全く消費者の立場なんですけど、できれば一番いいのは、道の駅みたいな大型じゃなくて歩いて行けるところ。それで、青空市場でもいいから定期的にやっていただく、これがあれば大変助かりますね。それも見ていると最近、うちの近所のスーパーさんは週1回、何かそういうのに類することをやっておられて、それとか久御山でジャスコが野菜を売っ

ていますけど、どうもあれを見ていると、絶対に既存の商店とは競合しないと。むしろプラス効果のほうが多いんじゃないかという感じがしますから、その辺はむしろ商工会議所なんかで音頭をとっていただいて、町の活性化としてやっていただくのがいいんじゃないかなと。特にスーパーと何が違うかというのは、これはそのシーズンだけの商品でいいですよ。そういうのを、しかも恒常的にずっとじゃなくて、キャベツがないときはなくていいですよ。そんなのはスーパーさんにお任せしておけばいいんで、そういうほんとうのシーズンの地元のものだけというので限定してやれば、それはそれで大型商店と十分やっていけるし、消費者も大変ハッピーだなと。私、初めに地産地消って何ですかって聞いたのは、そういう今のような議論をちょっと深めていただければありがたいなと。あまりにここの町それが少ないから、ちょっとびっくりしていた。

【高原部会長】 ありがとうございます。

【西江委員】 すごい洞察力で、そういう意見が市民から欲しいなと思っていました。商業にしてもそれから農家にしても、このデフレの時代、ほかの保存食品が価格競争で薄利多売で、それで利益が出ないというような状態。農業関係だって、流通を通したら自分のところ価格決定権がありませんから、どうなるかわからん。それで、これは私、技術的なことはわからんのですけれども、今は農産物の形とか色とか大きさとか標準化して、きずがない、きれいな芸術作品みたいなもの。味の要素というのは評価されていないですよ。つくり方によっては味が相当変わってくるようなことも聞きますし、もちろん無農薬という、無農薬は飛躍かもしれませんが、低農薬とかいう方向に行けば、それは価格競争に巻き込まれませんし、対スーパー対策に巻き込まれませんし、おっしゃったとおりのオールシーズンのものであるというのは扱わないというのが、むしろシーズン限定のほうが、季節限定、観光でもそうやと思うんですけれども、季節限定で、風景もそうですけれども土産物もそれから料理も、行事ももっと四季の色合いを出したものをやれば、もっと宇治は多産業で取り組んだらいけると思うんです。おっしゃるように道の駅もよそにはありますが、私は各駅のそばに、「あ、これがとれたんやな、おたくの農家が持ってきていただいたんやな」と。1つの農家が1つの直売所でいかんかったら数駅いけるとか、そんなことで、価格競争に巻き込まれずにいい品物、安心でおいしいものを、できれば規格品じゃなしに、いがんだものでもそれがいいんだというふうなものを、今度は普及する取り組みをしたいと思いますね。これしか全産業的に生き残る道がないんじゃないかと。土地柄を生かすということがね。

私はもう以上です。

【高原部会長】 ありがとうございます。今、商・農と市民という立場から、非常にすばらしいアイデアを議論いただいておりましたので、ぜひとも、先ほど高橋さんからもご意見ありましたようなことで、市のほうとしてはそういう中をサポートしていただくような、もしくは先ほど西江さんの話にありましたように、既存の商店の圧迫になってもいけませんので、その辺のバランスをとっていただくのが行政のほうのお仕事かと思っておりますので、ぜひとも今のような生の声をうまく酌み上げて、行政に生かしていただければと思いますので。そういったと

ころも、この「現況と課題」を超えて、さらにそれに対する提案というところまで行っていますので、そういう段階でまたこれを生かしていただくような形で、道の駅も大きな国道沿いには必要でしょうし、それからほんとうの駅の小規模なところで、会社の帰りにちょっと寄って白菜を買って帰るとか、キャベツを買って帰るとか、キュウリを買って帰るかというのは、実際にあると非常に便利だと思いますし、いろいろなアイデアがございましたので、その辺ちょっとまた施策を検討いただく中でお願いしたいと思います。

それでは、時間もございませんので、続きのところ、もう少しだと思いますが、お願いいたします。

【事務局（吉田）】 事務局の吉田です。残り、そしたら行かせていただきます。

「商業の振興」のところでございますけれども、支援施策を実施していますけれどもというようにございまして、ここに書いてある補助制度でイベント等に補助をしております、いろんなイベントに補助をしております、実際のところ、補助入っているのかなと思わないようなこともしておりますので、イメージがないのかなと思います。それから駐輪場整備等も実施しております。

それから、宇治橋商店街の個別の話でございます。マスタープランの話でありますけれども、マスタープランの目標年度、ちょっと細かいところまであれですけど、平成36年度でまだ先までございますこと、ここに書いてあること。それから、宇治橋商店街の道につきましては府道ということで、電柱の地下化等も今取りかかっているところがございますので、いろいろ連携を図りながら進めているというところがございます。

それから、細かいところ、中小商店の経営不振でございますけれども、こういった理由もあるのかもしれませんが、やはり大型店との競争等々というところが大きな影響じゃないのかなと思っております。

それから、宇治橋商店街、個別の商店街の消費額データはありません。済みません、次、観光客の消費額につきましては、ちょっと漏れているみたいですので、後から追加させて答えさせていただきます。

それから、地域特性に合った製品の開発実績ですけれども、宇治茶を特産品加工したものを販売しております。

それから、支援ですけれども、商工会議所を中心にしてやっていただいておりますのでございます。

めくっていただきまして、26ページは「勤労者福祉の向上」ということで、具体的内容でございますけれども、こちらに書いてある住宅資金融資事業等々の事業をしております。

城南地域職業訓練協会ですけれども、基本的には一般的な国・府の事業をやっているということで、事業内容を記述させていただいています。

めくっていただきまして、27ページですけれども、「消費生活の充実」、内容から見たら消費者保護じゃないかということですけど、これはお預かりして再度精査させていただきます。ただ、最終的にはここに書いてるように、大体当てはまるんじゃないかなとも思っております。

す。

めくっていただきまして、今度は「人権尊重社会の実現」ということで、「人権教育・啓発の推進」でございます。具体的に存在するののかということですが、認識といたしましては、今なお多くの人権問題が存在しているかと思っております。解決に向けて取り組むということを書いております。

29ページです。29ページ、今度は男女差別問題が存在するののかですが、こちらも答えで言えば存在するという認識の上で事業を進めておりまして、具体的な例それから今の取り組みについて記述しております。

以上です。

【高原部会長】 ありがとうございます。まず、商工関係、観光も含めてですが、商工関係に関しましては今、農業との関連でも議論いただきましたけれども、この辺何か。かなりこの辺のところの議論は先ほどいただいておりますので、追加でございましたらお願いいたします。

【西江委員】 西江です。まず、商業ですが、見たらご答弁のとおり、昔の活況はありませんね。商店街を見ていただいてもそうですし、むしろ店舗数も減っています。町の中から、大体市街地の住居地のところには喫茶店があって、町の人が寄っていたと。コミュニケーションもとれていたんですけど、それも喫茶店なんていうのはほんとうにチェーン店が元気にやっているぐらいのもので、まあまあ別に家賃払わないからやっている程度とか、そんなふうには元気がなくなってきたわけです。そういった中で、ここにも書いていますいろんな宇治市の施策もやっていただいて、今回、定額給付金の補助もしていただいて、よそは市内で使える共通商品券ということで、ほとんどがそればかりやったんです。全国的にそうだったんですが、それ以外になかったんですが、我々は幸か不幸か、以前にグリーンギフトという市内共通商品券制度をやっているうちに、それはもう大型店へ流れるということだったので、今回やったって地域の商業に対して買い物につながらないから、クーポン制度をやったんですね。補助をいただきました。しかし、全国で、最小の補助で最大の効果を上げたのがこれじゃないかと思うんですね。今、フリーペーパーってありますよね、持っていけばサービスしてもらえ、何割引とか。それをチラシにやって、新聞を広げた大きさで、それで104店の参加があったんですが、実に1件当たり、6カ月ほどの期間があったんですけれども、74回使ってもらって、総数で7,000から8,000回ぐらい使ってもらっております。役所とか商工会議所がこんな売り上げに直接つながるようなことまでやってくれたんかというようなことで、相当これに関しては感謝されていまして、そういったことで、よく市長がおっしゃる小さいコストで最大の効果を上げるというのは、これはもう最高やったなど。これは商工会議所と市の商工との連携の中で、これでいこうかということでやったのです。そういったことを見出していきたいなと思っております。

それは事業でいろいろやっていただいております一番のヒット作、最近のヒット作として、全部は触れませんが、いろいろ支援いただいていることは確かです。ただし、それが決め手にはな

っておりませんのでね。商業、サービス業、商業といったら小売だけを想像しますが、いろいろサービス化をしておりますので、これからは「物を売る」からいろんなサービス、学習塾なんかも含めて産業と見たらそういうことになってまいりますので、やはり立地、産業はやっぱり場所が決め手になりますからね。それと、ここにも触れていますように、価格競争力があるかないか。幾らいい場所だって、経営能力のない人が陣取っていたんでは邪魔になるだけであって、それをやっぱりまちづくりの中でやる。そのまちづくりも、価格競争にさらすとかいうんじゃないしに、さっき言ったように、農家との直売という連携の中でデフレによる薄利多売ということを守る道でもありますし、今後は高齢化対策というまちづくりもありますし、ただ、さっきもおっしゃったように、歩いて行けるところがいいと。歩いて暮らせるというのは1つのキーワードになってくると思います。これは将来の展望ですけれども、今現状、日本は、イタリアが19%ですか、日本は22%の65歳以上の高齢化率になっていますし、宇治は若干全国平均より若くて20.9%ぐらいの高齢化率だと思います、去年のね。遠い将来は2050年に向かって40%になるという、ものすごく恐ろしい世の中になるわけで、その風を逆風と読むか順風と読むか。それを順風にするためのやっぱり施策というのを役所はやらないかんし、我々民間団体も取り組んでいかないかんので、高齢者が市外へ買い物に行かないかん、「車で行くのおっくうやな」と。家族の5人分を1週間分買ってって、そんなニーズは薄れますので、したがって、歩いて駅の周辺でというような方向というのが1つのキーワードかなと。現状でも、特に高齢化率だけではなくて、2年前から定年退職60歳で、それで昼間人口の主役になっていますよね、今現在でも。単に65歳以上、高齢化がこれだけ進んだだけじゃなくて、昼間人口、町の昼間のニーズというものがぐんと2年前から高まってきて、来年が特にピークになるんじゃないかと思うんですけれども、そういった階段を大きくジャンプいたしましたので、それに対する対策としても、早急にまちづくりということを考えないと、商業問題は解決しないのかなと。でないで、安く仕入れるための施策が何かあるかって、それはないでしょうね。「何か補助をしたい。助けよう」って一時的なものやから、やっぱり民間が力をつけないといけませんので、さっき言ったような直売所というところも1つやけども、もう1つは形としては都市計画の関係で、まちづくりをそれに生かしていく必要があると思いますね。それと、さっき五艘さんもおっしゃったように、源氏物語と茶と観光という宇治市の顔としてのこれも活路を開かないけませんし、これは全市の産業の出荷額とかのあれにカウントされていく、市のGDPと言われるそれにカウントされるようなことにもなりますので、単に福祉面、市民生活面だけじゃなくて、市の将来の産業の意味でも中心市街地の活性化というのが必要かなと。

ただし、思いますのは、これは今現状とそれから将来の動向に配慮した現状を言わないと、将来そういうニーズがないことを今一生懸命課題だ、課題だと言ったって意味がないので、将来を見越した課題として言うんですけれども、高齢化とか、それから観光にも関係するんですけれども、今現在、中国人観光客が日本へ来ているのは100万人ぐらいだと思います。香港の人を中国人と見たら150万ぐらいだと思いますが、それでも韓国の300万とか台湾の200万台に及びませんし、第3位ですけれどもね。それが今現在、昔は中国からは難民で、

なんとかピープルで船に乗ってきてそれで不法入国するという対策で、団体しか認めませんでしたね、以前は。最近、個人旅行を認めるようになった。だけど、それでも低所得者が来るので、日本円で350万円ぐらいしかだめだということですが、今度新政権になって、350万以下でも認めようやないかという日本側の規制緩和。もう1つ、中国側の規制としては、日本の旅行者が向こうで募集して日本ツアーって組めないんですよ。それもやってくれやと。今度は中国に対する規制緩和をやってみて、それが達成したら、中国の所得は韓国や台湾より伸び率が低いと思うかもしれませんが、ぐんとありますし、それから何ととっても13億人口ですので、おそらくその規制が撤廃されてもうしばらくしたら、もうGDPは今現在追い抜かれるかそこらでしょうね、全体的に。だから絶対やってくるわけです。きょう山本さんおられないので、観光の部分に踏み出すのもちょっと越権かもしれませんが、圧倒的多数が中国人と、こうなってきたら、それじゃ、宇治の観光、「ほなら、源氏物語ちょっと観光」という中でも、その観光の意味合いを、今、外国人観光客は秋葉原でとかヨドバシカメラでという買い物観光が多いでしょう。そして都市観光も多いし、それからポップカルチャーも多いですけども、しかし、やっぱり宇治とか京都がとるべきスタンスとしたら、やっぱり歴史的なものを売りにしないといけませんので、そういった中で、今取り組んでおられる太閤堤というテーマもあります。ただし、豊臣秀吉と中国、韓国は悪いんですけど中国は抵抗もないやろうし、それもいいし、そして地勢的に、その次は三室戸寺も花のお寺で人気ありますね、今。おっしゃっている市の方向でもありますけれども、萬福寺まで、先ほどの「こまかげの道」ですか、そういったことの計画もありますが、これはぜひポイントが合った、標的の合った、ターゲットがメインターゲットで中国人をとらえたら、この黄檗山萬福寺というのは、これは唐招提寺が、中国僧が開祖なんですよ。日本で次ほかに誰があるんやったら、隠元禪師なんですよ。それ以外、あとは日本の坊さんが向こうで修行して開祖しただけやから、これは京都としては1つしかないんですよ。これは京都府の連携の中でやらないと、宇治が何ぼ頑張ったって、京都も連携してもらって、京都の観光の中に宇治も組み込んでなかったらいかんで、親と孫ぐらいの関係じゃなしに親と子ぐらいの観光力をつけないと、これは産業としてこういうことをやってきたというメインの事業にはなりませんのでね。したがって、そういったことも、将来中国人が圧倒的多数を占めるようになるという想定のもとにプランニングをしたほうがいいんじゃないか。どう具体的にするかについては、将来これからのいろんな議論があるでしょうけれども、将来を見越した課題としてはそれがあんじゃないかと思います。

もう1点、まちづくり以外で、工業関係なんですけれども、これは皆さんご存じのように、工業団地という敷地としてのキャパシティもないし、敷地としての伸びしろがないわけですね。前回も少し言いましたけれども、ただ工業というのは業種移転が速いから、何々加工業から何々加工業へということが意外と転換しているわけで、したがって、それで空き倉庫になってしばらくタイムラグがあって埋まるというんじゃなくて、即座に埋まるというふうな情報提供をしていく。空き店舗のこちらはプログラム組んでやられたようですけども、空き工場というのもネット上での情報公開も要ると思います。それともう1つは、伸びしろがない、とい

うことは情報提供せなあかん。情報を、ほな、宇治の製造業はこんなんをやっているんだというのを、宇治の4人以上の企業は、今ちょっと減っているかもしれませんが、300ほどあると思いますね。だけど、この阪神高速の京都線ができたなら、南区も伏見区も城陽も久御山も宇治も、これはもうよそから見たら一体なんですよ。製造業者にしたらって、別にそこに垣根を何も感じていないんだから、今は大量に発注してわっと1万個とかいうことじゃなくて、「これちょっとつくりたい、できるやろうかどうやろうか」というような、そういうような関係の、試作ですね。試作ネットは各地でも活発ですが、できればこの京都駅以南がそういった、あそこでこんなことやっているんだ、あんなことやっているんだということを、そういったネット上の製造業に特化した受発注をサポートする。昔やったら受発注は紙面で、こんな受注がありますよと、注文ありませんかと。こんなことは今、ネット時代だから。しかも、各社がホームページでそれをやっておりますけれども、このホームページのフォームというのが各社勝手ばらばら。社長の社訓から何やかんや書いたやつから、また、合理的にまず自分のところの売りものからトップページに持ってくるとか、ばらばらですが、当然後者のトップページに売りは持ってこないかんですけれども、最近は動画つきでやったって10万とか15万ぐらいで、その売りの技術を動画で見せると。それで、製造業者やったらぱっとわかるわけですね。「あ、ここはこういうことをやるんだ」というふうな機動力のあるフォームの統一した検索サイトを、業者の垣根を越えてやる必要があるんじゃないか。北部は北部で工業団地がありますが、南部は南部で、自分たちのこの地域の中で簡単に相談に行ったり、あるプロジェクト、こういうものをつくらうじゃないかとか、東大阪の衛星じゃないですけども、それで人が寄ると。そういうようなことはやっぱり地の利というのもできますし、さっきの野菜とかそういったものの地産地消を言いましたけれども、お茶を使った食品もいろいろ出てきていますが、工業の地産地消ですね。地域ですぐにいけて、顔もわかって信用力もわかるというようなことで、土地の伸びしろがなかったら、情報の伸びしろをどこよりも先駆けてやるべきじゃないかというふうに思うんですが、これには施策としても金もあまりかかりませんからね。したがって、そういったことも工業に関しては感じますね。大体今思いつくところはそんなところですよ。

もう1点、工業に関して、そういう小さなことしかできませんが、用途指定があって入ってこないなら、新しい産業、製造業が入ってこないなら、出ていかない施策というような守りが必要です。野球で攻撃ばかりしていたって、攻撃する打者がいなくなったんやから、したがって守り、点をやらないという守り。そのために用途指定が随分、それはそれで全国平均でいいかもしれませんが、宇治は宇治なりの、すぐそばに住宅があると。それに対してはどんなんでこんなん、もうちょっときめ細かくもう一度チェックする。大まかには今の現状でいいんだけど、もうちょっと微調整といったものを、企業とのディスカッションの中で聞きもってできるもので、そして住居側が文句のないものは、できるだけ簡便にということで、用途地域の特別指定ですか、特別用途地域ですか、そういった制度もあるようで、宇治は宇治なりの用途地域の微調整という制度があるようですから、そういったことは我々詳しくないので、役所の方が詳しいので、そういったことも、土地の伸びしろがないという制約条件の中で、日

本は土地がないという農業の制約の中でああいったことを言うのと同じで、宇治の工業立地がないという中で、守り、それから情報の面で力を入れんことには、指をくわえて見ていたんでは何も進まないと思いますね。したがって、製造業に対しては、この出荷額というのが税金として返ってきて、それが福祉や教育に回りますので、それを大事にする意味ではそちらの方向も、課題ですよ、どうしたらいいこうしたらいい言いませんが、課題としてとらまえたいというふうに思います。これは商工の現場からの声として述べさせていただきました。

【高原部会長】 ありがとうございます。1つ、今お話しいただいたことの中で、宇治の中の商店のあり方として、高齢化の問題等少し最初にお話しいただきましたけれども、宇治の周辺の新しい住宅地、新しいと言いましてももう何十年もたっているところもあって、例えば明星町なんかかなり早くからの住宅地ですよ。ですから、住んでおられる方がかなり高齢化しておられると。ただ、そこには買い物するところがほんの少ししかないわけですね。ああいうところから自転車ですっと買い物に出てこられて、今度は重い荷物持って自転車でもた上がっていかないといけないと。高齢の方にとっては大変なご苦労をされているような、私の知っている方にもおられるんですけれども。そういった意味で、今後、ああいう大きな住宅地もいずれ高齢化していくと。その中で、自動車で買い物に行くというようなことが難しくなっていくことは、これは当然予想されることで、今、西江さんがおっしゃっていただいたように、商店のあり方というの、そういうところも少し将来を見据えてやる1つの課題じゃないかなと思いました。

それから観光面での、中国とか韓国とか、特に中国は経済発展が目覚ましいところですので、そういうところから人に来ていただくという意味では、確かに平等院とか萬福寺の、もともとその当時できたときの文化というのは中国から来ているものですし、そういった中国と日本の宇治の寺院のつながりというものをうまく利用していけば、そういう中国の方に来ていただけるというようなこともあるかと思います。

そういったいろんな視点を今お話しいただきましたので、これは課題としても重要な視点じゃないかと。新しい問題点でもありますので、そういったことも含めて、こういった現状と課題の中に盛り込んでいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、前回議論いただいて、今回、質問のシートでご質問いただいたことに関しても幾つかコメントをいただいて、また皆さんの中から新たな提案とか、いろいろ大変有意義な議論もしていただきましたので、それをうまく反映していただいて、2月ごろまでに新しいこの現況と課題についての改訂版を検討いただくということで、またこれに関しましては事務局のほうから皆さんに、改訂版についての事前に何かご紹介いただけるわけですね。またそれにつきましてご意見等ございましたら出していただいたらと思いますし、それからこの中の文言について、幾つか私もちょっと間違っている点とか言葉の使い方とか文章とかでコメントがございますけれども、またそれは別途事務局のほうへお知らせしたいと思いますが、皆さんの中からでもそういうことがございましたら事務局のほうにお伝えいただいて、さらに改善された、

今回のこの現況と課題についていいものができると思いますので。

【桑原委員】 桑原です。これからの今、部会長がおっしゃったことなんですけれども、1つは大変今回の議論で困惑した部分がありまして、この現況と課題のところの中に、個々のサブパッケージになっているような基本計画がありますですね、都市計画だとか温暖化計画。ああいう項目に入っている基本重要事項が、全然ここに反映されていないわけです。これはこれで独立していて、基本計画は基本計画であってといたら、全体像が非常に見にくくなってきているというのが1つあります。ですから、ぜひ次のステップでこの総合計画をおつくりになるるときには、そういう基本計画の個別のサブシステムに入っている重要事項で基本的な重要事項だと言われているやつは、ピックアップして入れていただきたいということが1つ。

それと、全体的に申し上げて、ちょっとかなり抽象的な言葉で書いてあって、それをぱっと見ると、別に宇治であろうがどこの町でも同じようなことが書いてあるんですけど、この辺はやっぱり、総合計画というのは先ほどおっしゃったように抽象的になりますとは言いながら、やっぱり全く抽象的なことをやっていると何だかよくわかんなくなっちゃいますから、できるだけ「ああ、これは宇治のことを言っているんだね」ということが、においが出るように書いていただきたいということが1つ。

もともと私は、こういうふうに見況と課題、総合計画、中期計画、こういう輪切りがあまり良くないんじゃないかと思うんですけど、これは今さら議論してみても始まらないですから、できるだけちょっと今申し上げたような、基本計画だとか何かに織り込まれていることと今の今回のペーパーのやつを織り込んでいただくことと、それから、上手に宇治らしいにおいが出るようにしていただいて、次の議論にうまくつなげられるようにしておいていただけたらありがたい。お願いします。

【高原部会長】 ありがとうございます。貴重なご意見ですので、また文章を作成される中で、市民の目からわかりやすいようにということが一番重要だと思いますので。

それで、あと今、桑原さんがおっしゃった中の、個別のものとの、ほかの分野とのつながりとかその辺は、この中期計画、基本構想の中でまた全体の審議会がございますので、そこでほかの分野に関しても、どういうつながりがあるのかというようなところの議論もいただければと思います。今回、我々のこの市民環境専門部会の中の現況と課題に関しても、今のような視点で改訂をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

ほかに最後に何かございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、きょうは少しというか結構時間が過ぎてしまって、ただ熱心にご議論いただきましたので、大変有意義だったと思います。ありがとうございます。

では、事務局のほうにお願いしたいと思います。

【事務局（西岡）】 失礼します。事務局の西岡です。事務連絡といたしまして、次回の審議会の議論する概要をご説明させていただきます。

本日、前回も含めてなんですけど、専門部会でいただきましたご意見、ご質問がございます。すべての内容ということではちょっとどこまでまとめられるかあれなんですけれども、今後の

基本構想及び中期計画に反映させていただくこととなります。次回については基本構想の事務局案を、総合計画審議会の全員がそろいます全体会にて構成等の内容をご説明させていただきます。また、会議の日程なんですけれども、また後日調整させていただきたいと思いますが、おおよそ来年の2月ごろという形となりますので、よろしく申し上げます。本日は貴重なご意見ありがとうございました。

(日程相談)

【高原部会長】 よろしいでしょうか。では、ありがとうございました。

— 了 —